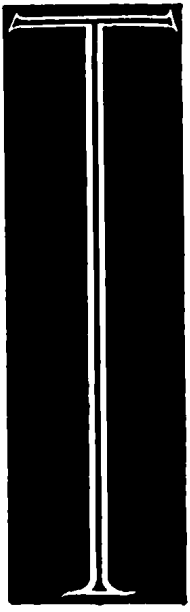
国民経済と世界経済



京都大学教授
松井　清　著

YUSHINDO-
sosho

有信堂刊

国民経済と世界経済

1970年4月20日　初版第1刷発行　　•定価はケースに表示してあります
1976年2月28日　初版第4刷発行

著者　松井　清／発行者　増永勇二　　印刷　南保印刷／製本　石橋製本

東京都文京区本郷5-30-20　振替東京　6－141750
〒113-91　TEL (03)－813－4511
京都市左京区百万遍　振替京都　2 3 5 2 3
〒6 0 6　TEL (075)－781－3652

発行所
株式会社 有信堂高文社

復刊にあたって

この書物は、一九五〇年五月弘文堂の「アテネ新書」の一つとして発行した『国民経済と世界経済』を復刊したものである。それからすでに二〇年を経過しており、いまになってみると訂正したい点もかなりあるが、若干の誤植の訂正を別として、そのままの形で復刊することにした。そのおもな理由は、当時この小冊子を通じて明らかにした国民経済と世界経済の概念は、その後二〇年を経た今日でもその大綱において誤りないと思うからである。

新刊においてとくに変ったところといえば、補論として、一九六八年一一月発行の「経済論叢」に掲載した論文「経済学批判体系と世界市場恐慌」を追加したことである。この論文も、前の小冊子と同じように、国民経済と世界経済に関するマルキシズムの考え方を取り扱ったものであり、これを追加することによって、わたくしの考え方がより明らかに

なることを期待している。

「アテネ新書」が絶版になってから、前の小冊子を復刑してくれないかとの希望がかなり多くの人々から寄せられていたが、この度有信堂社長増永勇二氏の御好意によって、それが実現したことを喜び、同氏に厚くお礼申し上げたい。

レーニン生誕一〇〇年にあたる

一九七〇・二・六

京都の寓居で

松井　清

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次

まえがき……三
I　ハルムスの『国民経済と世界経済』……一三
II　ローザ・ルクセンブルグにおける国民経済と世界経済……四一
III　レーニンにおける国民経済と世界経済……七七
IV　スターリンにおける国民経済と世界経済……一〇九
あとがき……一二七
補論　経済学批判体系と世界市場恐慌……一三三
まえがき……一三三
I　プラン論争……一三八
II　世界市場恐慌へのアプローチ……一四四
III　二つの世界経済……一七一

国民経済と世界経済

まえがき

これまでの経済学は価値・価格・労賃・地代等については多くを説いているけれども、ここで取り上げようとする国民経済と世界経済というような題材については殆んど何事も説いていない。本書はこれまでの経済学で比較的閑却されていたこの題材を取り扱っている。この題材の取り扱い方には、現実における日本経済と世界経済の構造的連関を明らかにするという方法もあろう。だが本書ではそういった方法をとらず、いわばその準備段階として、これまでの数少ない諸学説においてその題材がいかに取り扱われたかを明らかにするという方法をとっている。純粋に学問的な方法であって、諸学説の検討を通じて、国民経済と世界経済の正しい概念に到達することを意図しているのである。

われわれはまず本書を本書と同じ題名をもった膨大な書物の著者ベルンハルト・ハルムスの

見解の検討から始める。ハルムスの名は同じくドイツの経済学者であるマックス・ウェーバーやウェルナー・ゾムバルトほどに有名ではない。単に名声のみではなく、学者としての価値においても確かにハルムスはこれら二人の学者よりも劣っているといってよいであろう。方法論的にはウェーバーの亜流を汲んでいるにすぎぬとさえ批評する人があるほどである。それにもかかわらずハルムスを取り上げるのはその題材のゆえにである。世界経済を語ろうとするものは、どうしてもハルムスの見解に触れないではおられないのである。

周知のようにドイツのブルジョア経済学の伝統は、フリードリッヒ・リストの Das Nationale Syetem der Politischen Ökonomie 以来「国民経済学」として育て上げられてきた。それに対してハルムスが『国民経済と世界経済』という題目を掲げ、「世界経済学」を提唱したことは、確かにある意味では画期的だったのである。ハルムスの『国民経済と世界経済』Volkswirtschaft und Weltwirtschaft の出版されたのは一九一二年、わが国でいえば大正元年であり、第一次世界大戦勃発の二年前にあたる。当時欧州における顕著な事実は、数個の先進資本主義国の帝国主義化であり、帝国主義化にともなう資本主義の世界資本主義化である。ブルジョア経済学の任務が、ブルジョアジーの支配体制を維持・強化することにあるとするならば、一国資本

主義の世界資本主義化の傾向にともなって、国民経済学が世界経済学に編成替えせられねばならぬのは当然である。ハルムスの仕事が、その理論的水準の低さにもかかわらず、当時相当の反響を呼んだのは、ブルジョア経済学のかかる新たなる要求によくマッチしたからであると考えられる。ハルムスをめぐるこのような客観的条件と主体的条件は、これから明らかにしてゆくように、ハルムスの学説を制約している。彼の学説においては世界経済の意義を強調するのあまり、国民経済の正しい科学的究明がなされていないのである。かれの論理のおもむくところ、結局国民経済は世界経済のなかに解消されてしまい、ここに悪しき意味のブルジョア的世界主義が成立する。ブルジョア的世界主義は、国民経済をすなわち民族の経済的基礎を否定することによって、かえって民族と民族との闘争を挑発し激化するのである。

ところで帝国主義の発展にともなってブルジョアジーに対する敵対的階級であるプロレタリアートもまたその経済学を新たなる事態に即応して編成替えせねばならぬことは当然である。帝国主義化にともなって資本主義が世界資本主義化し、ブルジョアジーが世界的規模において階級的同盟をする場合、それに応じてプロレタリアートの経済学もまた自らを変革することを要求される。もっともブルジョアジーとちがって本来祖国をもたぬプロレタリアートは、最初

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

から国際的であったということができる。マルクスは共産党宣言で「労働者は祖国をもっていない」と述べ、宣言を「プロレタリアは自分の鎖よりほかに失うべき何ものももたない。そして彼らは、獲得すべき全世界をもっている。万国のプロレタリア団結せよ」という言葉で結んでいる。なるほどプロレタリアートは祖国をもたず、本来国際的である。けれどもマルクスの生きた一九世紀においては、プロレタリアートが階級として結成せられたのは欧州における数個の先進国にすぎず、世界的規模においてプロレタリアートの階級的結成は実現していなかった。欧州の先進国の植民地においてはある地方ではようやくプロレタリア民族主義が台頭していたが、大部分の地方ではまだブルジョア民族主義すら台頭していない状態であった。したがってマルクスにおいてはブルジョア民族主義とプロレタリア国際主義に関する天才的な洞察があり、国民経済と世界経済についての優れた命題が存在しはするが、なおこれらの問題が焦眉の急をつげる問題として提起せられていなかった。ところが二〇世紀帝国主義の段階に入り、資本主義が世界資本主義化するにともなって、プロレタリアートの側としてもブルジョア民族主義とプロレタリア国際主義、国民経済と世界経済の関係について深甚な考慮をはらわざるをえなくなった。ドイツ社会民主党の理論家ローザ・ルクセンブルグはこうした環境においてマ

ルキシズムの新しい解釈を試みようとしたのである。われわれはハルムスのブルジョア的世界主義に続いて、同じ地盤が生み出したローザのプロレタリア国際主義の主張を観察することにしたい。彼女の『経済学入門』や『資本蓄積論』が観察の対象となるのであるが、そこで彼女は徹底的なプロレタリア国際主義を主張する。ちょうどハルムスがシュモッラーやその他のドイツ「国民経済学」を批判したように、いなそれよりもはるかに激烈にローザは「国民経済学」を罵倒し、民族の経済的基礎＝国民経済を否定するのである。ローザ・ルクセンブルグのこの徹底した国際主義は、単にブルジョア的な「国民経済学」の批判に向けられたのみでなく、第一次世界大戦に遭遇して戦争協力者であることを明らかにしたドイツ社会民主主義者の批判をも含んでいた。当時の社会民主党によった社会民主主義者達は、戦争に積極的に協力することによってブルジョア民族主義に転落したものか、あるいは戦争に反対するにしても、戦争が資本家の話し合いによって避けうるとする改良主義者からなっており、いずれも帝国主義戦争に対して徹底的に闘うことはできなかった。ローザはこれらの社会民主主義者に対しても、その徹底した国際主義の主張を投げつけねばならなかったのである。こうしてローザの徹底した国際主義が生まれ出てきた客観的条件と主体的条件はよく理解できる。だがローザのプロレタリア国

際主義の主張は、帝国主義に対して鋭く対立するのあまり、具体的な条件の検討を忘れ、後進国ないしは植民地におけるブルジョア民族主義の評価において欠けるところがあった。帝国主義ブルジョアジーに対する闘争において、後進国ないし植民地のブルジョア民族主義的闘争が、主力軍プロレタリアートにとって力強い同盟軍となることをローザは否定するのである。ローザは帝国主義段階における民族自決の要求を否定し、民族自決の要求は必ずや帝国主義戦争に転化すると主張する。そしてこの見解は民族の経済的基礎＝国民経済を否定する理論と関連し、さらには彼女の誤った再生産論の解釈とも関連している。われわれはローザの検討においてそのことを明らかにするであろう。

プロレタリア国際主義の立場にたちながら民族のブルジョア民主主義的な要求に対する正しい評価を与えたのはレーニンである。レーニンはまず民族自決についてのローザに対する批判を通じてかかる立場を確立しているのであるが、この立場はレーニンをして国民経済と世界経済についての正しい認識へと導いている。『帝国主義論』においてレーニンは、その不均等発展の理論から、先進資本主義国と後進資本主義国との関係、資本主義国と植民地との関係を具体的に指摘しているのである。そしてこの不均等発展の理論は、マルクスの再生産論の正しい

解釈から生まれている。ローザは再生産論を誤って理解し、再生産は拡大再生産過程における剰余価値実現の不可能を証明するものであると考えた。その結果としてローザは資本主義は非資本主義圏なしには存在しえないと結論し、資本主義圏を国内、非資本主義圏を外国と規定して政治地理的な国民経済を否定しさったのである。これに対してレーニンは再生産論を正しく理解し、再生産論は生産手段生産部門と消費資料生産部門との間の、価値および素材の適応関係を明らかにしながら、資本主義生産の不均等発展を証明しようとするものであると考えた。そしてこの不均等発展は個々の産業部門、個々の生産部門の間においてのみでなく、個々の国家の間にも見られる傾向である。この理論によって初めて民族の経済的基礎＝国民経済の差異が明らかとなり、国民経済と世界経済の具体的関係は真に科学的な解明をえたということができよう。レーニンはローザを批判して民族の経済的基礎＝国民経済を明らかにするさいしばしばカウツキーの説に言及している。民族の経済的基礎についてまったく無知だったローザに比して、その点では確かに正統マルクス学者カウツキーは優れていたのである。けれども帝国主義を資本主義最後の段階として、すなわち一つの経済構造として理解しえず、これを一つの政策として理解したカウツキーは、結局ブルジョア的改良主義となり、民族政策において社会民主党右派

のブルジョア民族主義と本質的に異ならないものとなっている。レーニンは『民族自決権について』においてはローザに較べてカウツキーの理論を正しいとしているが、『帝国主義論』においてカウツキーの超帝国主義論を徹底的に批判し、真のプロレタリア国際主義が何であるかを明らかにしている。民族の経済的基礎＝国民経済を認めることは、決してブルジョア民族主義を認めることであってはならない。要するにレーニンはローザの偏向を批判し、カウツキーの日和見主義を批判することによって正しい民族綱領を打ちたて、同時に国民経済と世界経済の科学的解明を行なっている。われわれはローザの検討を終って第三にレーニンにおける国民経済と世界経済について学ぶことにする。

レーニンの民族理論を正しく発展せしめた後継者はいうまでもなくスターリンである。とりわけスターリンの学問的業績として高く評価せられるものは、一九一三年に書かれた『マルクス主義と民族問題』であり、この論文においてスターリンは、第一次世界大戦を前にして社会排外主義者＝ブルジョア民族主義者に転落し終った社会民主党右派オットー・バウエルの理論を徹底的に批判するとともに、マルクス主義的見地からする民族の学問的な定義を最初に打ちたてたのである。民族の経済的基礎＝国民経済を明確ならしめることによって、レーニンが一方の

極における誤謬であるプロレタリア国際主義における偏向（ローザ）を批判したとするならば、スターリンは同じことによって他方の極における誤謬であるブルジョア民族主義（バウェル）を批判したということができよう。民族主義的要求はそれ自身ブルジョア的要求である。したがってプロレタリアートは自らの階級の利益と一致する限りにおいてこれを支持するけれども、それは民族的要求のすべてを支持することではない。民族自決のために闘いながら、プロレタリアートは、民族抑圧政策を終局に導き、かかる政策を不可能ならしめ、窮極においては、民族闘争をなくして真のプロレタリア国際主義を実現しようとする。かかるいみにおいてプロレタリア的な立場から民族主義的要求を支持することは、民族間の闘争を継続し、尖鋭化しようとするブルジョア民族主義とは本質的に異なっている。こうしたスターリンの民族理論は、国民経済と世界経済についての科学的認識なしには不可能である。スターリンはその著『レーニン主義の基礎』において、レーニンを引用しながら、発達しつつある資本主義には、二つの歴史的傾向があることを指摘している。第一は、民族生活および民族運動の覚醒、あらゆる民族的圧迫に対する闘争、民族国家の創造であり、第二は、民族相互間のあらゆる交渉の発達と緊密化、民族的限界の打破、資本、経済生活一般、政治、科学等々の国際的統一の創造である。そし

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com